

ポプスカイン注 配合変化表

(2012年10月3日現在)

ポプスカイン注	pH変動試験	希釈試験
	変化点 pH	生理食塩水 (pH6.00 及び pH8.05)
0.75% (7.5mg/mL)	6.11 (白色沈殿析出)	0.6~5.6mg/mL (1.3~12 倍希釈可)
0.25% (2.5mg/mL)	6.52 (白色沈殿析出)	1.3~1.9mg/mL (1.3~2 倍希釈可)

薬効分類	薬剤名	配合比率	結果
副腎ホルモン剤	ボスミン注 1mg/mL	100 : 0.5	変化なし ^{1), 2)}
	ケナコルト-A 水懸注	10:1	変化なし(ケナコルト-A 自身が懸濁液)
	デカドロン注射液 6.6mg	5:1	配合直後に白濁
		10:1	
	デキサート注射液 6.6mg	2:1	配合直後に白濁
		1:1:1※	
		5 : 1	
デポ・メドロール水懸注 40mg	10:1	変化なし(デポ・メドロール自身が懸濁液)	
	2%リンデロン注		3:1
解熱鎮痛消炎剤	レペタン注 0.2mg/mL	96:2	変化なし ¹⁾
	ノイトロピン注射液 3.6 単位	10 : 3	変化なし
全身麻酔剤	ドロレプタン注 2.5mg/mL	96:2	変化なし ^{1)*}
X線造影剤	オムニパーク 300 注	1:1	配合直後に白濁
		2:1	
解毒剤	メイロン静注 8.4%	1 : 2	配合直後に白濁
		10:1	
		20:1	
局所麻酔剤	塩酸メピバカイン注シリンジ 2%	1:1	変化なし
	リドカイン注射液 2%	1:2	変化なし

1) 0.25%製剤、2) 0.75%製剤、その他は 0.5%製剤で検討。配合直後及び 1 週間後に外観、pH、残存率を求めた。

※ポプスカイン注：生理食塩液：被験薬剤、その他はポプスカイン：被験薬剤

*配合直後にポプスカイン 0.25%注のポリエチレンアンプルの規格 pH (4.0~6.0) を逸脱する pH の低下が見られたが、バッグ及びシリンジの規格 pH (3.5~5.5) の範囲内であった。なお、その他の薬剤に関しては、配合直後、24 時間後及び 48 時間後に外観、pH、残存率を求め、配合直後に白濁の認められたものについては外観のみ観察を行った。